

# 『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。  
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第13号(2008年8月26日)「中国市場動向2008年7月」



## オリンピックとは裏腹なグリーン相場

8月8日、中国にて念願の北京オリンピックが開幕しました。今回の大会は「グリーンオリンピック」と名付けられ、平和への願いと環境への配慮が人々の心を癒してくれました。

しかし、オリンピックの祝賀ムードとは対極に、本土と香港の株式市場は下落が加速しました。上海総合指数は8月7日から5日連続で下落し、一時2,400ポイントを割り込みました。香港H株も一時1万ポイント台に落ち込みました。地元紙は両市場を水泳の「高飛び込み」と揶揄し、大会中の株式市場は皮肉にも「グリーン相場」(中国では株価が下落すると緑字で表示します。)となりました。

## コスト上昇で業績不安拡大

市場下落の発端は11日に発表された7月の生産者物価指数(PPI)でした。PPIが10%の大台に乗ったのは12年ぶりですが、生産コストの上昇は企業業績に悪材料となり、7月の消費者物価指数(CPI)は6.3%と発表されましたが、悪化した市場のセンチメントは回復しませんでした。



## 鉱工業生産の鈍化は一時的か？

ただ、7月の経済指標は総じて堅調でした。内需は、1-7月の中国の都市部固定資産投資が前年比27.3%増、1-6月の同26.8%増から加速しました。7月の小売売上高も23.3%増と、96年2月以来の高水準に達して、輸出が鈍化するなか、内需が中国経済を下支えている状況が続いております。

しかしこうした状況も外部要因による減速が長引けば、徐々に変化してくると思われれます。

その一つとして、7月の鉱工業生産は前年比14.7%増と、6月の同16.0%増から鈍化し、19ヶ月ぶりの低水準となりました。これはオリンピック開催を控え、工場の一部操業停止なども影響していると思われれますが、世界経済減速に伴って、しばらくは生産鈍化が継続すると見られています。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



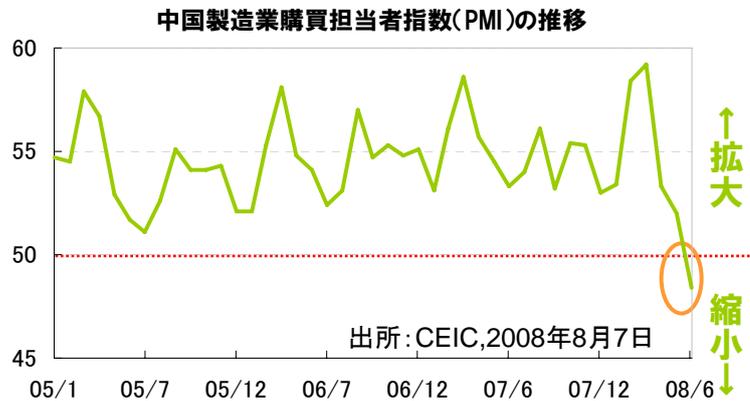
# 『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



## 景気の先行きに暗雲

製造業購買担当者指数(PMI)は、景気の先行指数としてよく利用され、50が拡大と縮小の分かれ目となっています。7月の中国のPMIは48.4と、6月の52.0から低下し、2005年の統計開始以来はじめての50割れとなりました。背景としては、外需・輸出の緩やかな減速が影響していると思われます。



## 景気浮揚に政策総動員

下半期、米国のサブプライムローン問題の継続や世界経済の減速は、外需に高く依存する中国にとって、より多くの不安要素がもたらされることを意味します。そこで現在、中国政府によるマクロ調整の主眼は「安定的かつ高い経済成長の維持」と「急速な物価上昇の抑制」という「一保一抑」(いっぽいちよう)に方向転換しています。具体的には、景気浮揚策として一部の紡織品、衣料品の輸出税の還付率の引き上げや商業銀行の融資枠の拡大などを行っています。これらの調整策は、中国経済に安心感を与え、また同国の政策運営の柔軟性と機動性を示していると言えます。

もっとも中国ではオリンピック終了後も、インフラ整備や都市建設への投資は継続されることから、中長期的な中国の経済発展のファンダメンタルズに影響を及ぼすことは少ないと考えています。

## 《主要株価推移》(各市場の直近1年間)



《編集後記》北京オリンピックの活躍で、今最も注目を浴びている水泳の北島康介選手。大会前の厳しいスランプと怪我を見事に克服し、金メダルを手に入れました。彼の力強い泳ぎとガッツポーズが今も目に焼きついています。世界的に軟調な株式市場の中、私も、この感動と情熱を胸に希望を持って前進していきます。

(知恵越え悟る&見に行っちゃイナ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。